

公表

児童発達支援事業所における自己評価結果

事業所名		公表日 2025年 3月 31日				
	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点	
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	8	0		
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	6	2	子どもの状況や職員の休み等があった時はクラスを越えてフォローし合っている。	職員数だけでなく職員の質を上げるべく、日々の振り返り、クラス討議、研修に力を入れたい。
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	5	3	バリアフリー化されていない部分についてはマンパワーでカバーしている。	
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	8	0	日々の掃除、整理整頓、消毒に努めている。設備の老朽化や故障にはその都度対応している。	定期的に施設や設備の安全チェックを徹底し、ケガ等にならないよう事前に対応していきたい。
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	8	0	子どもの状態に合わせて個室の利用等、環境を整えている。	
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか。	7	1		職員によってちゃんと参画できているかわからないという意見があったので、職員全体にPDCAサイクルを周知し、主体的に参画してもらえるように工夫していきたい。
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	8	0	評価表を元に職員全体で会議を行って、改善に努めている。	職員一人一人が当事者意識を持って業務に当たってもらえるよう会議の持ち方を工夫したい。
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	8	0		現場の職員の意見をすくい上げて職員が主体的に積極的に業務に当たれるよう風通しの良い職員作りをしたい。定期的に職員の声を把握する機会を作りたい。
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	0	8		第三者評価の導入時期について検討したい。
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	8	0	事業所内、法人内研修の他、外部の研修に参加する機会がある。参加にあたっては本人の意思を尊重して支援している。	研修に出られなかった職員に対して、資料はもとより、内容をしっかり伝えられるように時間や体制を整えたい。
適切な支援の	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	8	0		
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成しているか。	8	0	本人主体の視点と保護者のニーズのすり合わせを丁寧に行って作成している。	内容についてはブラッシュアップされるように改善に努め、職員内での共有と保護者の意向を日頃から把握するようにして作成したい。
	13	児童発達支援計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	8	0	アセスメントをもとに、子どもたちに関わる職員の意見を聞いて、児童発達支援管理責任者が計画を作成している。	
	14	児童発達支援計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	8	0		クラス全体で共通理解をするために支援計画をもとにクラス討議、ケース討議を積み重ねていきたい。
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	8	0	フォーマルなアセスメントだけでなく、日々の療育の中での職員の気付き等のインフォーマルなアセスメントを大切にしている。	個々の子どもの特性や状態に合わせて、より細やかな支援につながるようアセスメントを大切にしていきたい。
	16	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	8	0	「本人主体」「家族支援」を両軸に支援内容を設定し、具体的に個別性のある支援を心がけている。	支援内容についてわかりやすい説明を心がけ保護者の理解を得て、協力して支援していただけるよう努力したい。
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	7	1	チームで相談して行っている。	同じ活動プログラムでも、導入の仕方や展開の仕方を工夫するようにしたい。

提供	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	7	1	固定化しないよう工夫しているが、季節や時期によって内容が決まってしまうこともある。	
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせて児童発達支援計画を作成し、支援が行われているか。	8	0	子どもの状態に合わせて、集団と個別の活動を1日の中でもいろいろ組み合わせを行っている。	集団活動、個別活動の両方についてその子どもにとってどうだったかを日々振り返り、必要な支援や配慮につなげたい。
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	8	0	なるべく打ち合わせを前日や当日の朝にするように努めているが、職員の休み等によりできないこともある。	職員一人一人が主体的に支援に当たるためにも打ち合わせの時間を確保したい。
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	8	0	気付いた点、改善しないといけない点については、職員同士で伝え合うように努めているが、全員揃って時間をとるのが難しいのが現状。	日々の業務や時短の職員もいるため、時間の確保に苦労しているが、対面だけでなく他のツールも利用して振り返りと次の課題、目標の共有をしていきたい。
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	8	0		
	23	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	8	0		
関係機関や保護者との連携	24	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	8	0		
	25	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	7	1		
	26	併行利用や移行に向けた支援を行うなど、インクルージョン推進の観点から支援を行っているか。また、その際、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	7	1		
	27	就学時の移行の際には、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	8	0	個別にこれまでの支援と本人の状態や課題を含めた資料を作って引継ぎを行っている。本人だけでなく家族支援についても情報共有と理解につながるよう努めている。	
	28	(28～30は、センターのみ回答) 地域の他の児童発達支援センターや障害児通所支援事業所等と連携を図り、地域全体の質の向上に資する取組等を行っているか。	7	1	連携、協力し合えるように心がけているが、考え方、視点の違う事業所もある。自立支援協議会子ども部会への参加が増え、地域の質の向上につながっていると思う。	
	29	質の向上を図るため、積極的に専門家や専門機関等から助言を受けたり、職員を外部研修に参加させているか。	6	2	専門家の研修や外部研修への参加をしている人と、参加しにくい人がいる。	業務や勤務時間によって研修に参加、不参加があるので、内容の周知をどうしていくか検討したい。
	30	(自立支援)協議会子ども部会や地域の子ども・子育て会議等積極的に参加しているか。	8	0	子ども部会の部会長として内容の企画、実施等の運営を行ってきた。	顔の見える関係ができてきて、相談や協力がしやすくなったので、地域の福祉の資質向上に今後も貢献していきたい。
	31	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、地域の中で他のこどもと活動する機会があるか。	0	8	コロナ禍以降、交流保育が実施できていない。子ども食堂や施設の行事は段階的に地域	
	32	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	8	0	日頃は連絡帳や電話を活用して意思疎通を心がけているが、週1回の親子通園や月1回のファミリーデー、日曜日の家族行事も含め、保護者と顔を合わせてやりとりすることを大切にしている。	
	33	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	8	0	子育てセミナー、勉強会、講演会等、保護者や家族の学びの機会を提供している。	保護者のニーズに応えるべくアセスメントし、家族の力の向上につながる取り組みをしていきたい。
	34	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	8	0		
	35	児童発達支援計画を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	8	0	常に本人主体、家族支援の視点を大切に支援計画を作成している。	本人や家族の意向を十分に反映できているか、その都度確認して、不十分な時は適切に対応したい。
	36	「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ているか。	8	0	支援計画は必ず説明する時間を取り、同意を得ている。	
37	定期的に、家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	8	0	相談には迅速に応じるようにしている。十分な助言や情報提供ができない時は、しかるべき機関にも相談して、家族が問題を抱え込んでしんどくならないように連携している。	今後も専門家や地域の関係機関とも連携、協力して支援していきたい。	

保護者への説明等	38	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	8	0	保護者会他に、卒園児の親の会をバックアップして親同士で交流したり、相談し合える関係づくりを目指している。	引き続き、幼児期から学齢期、成人期とライフサイクル支援の1つとして取り組んでいきたい。
	39	子どもや保護者からの相談や申し入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申し入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	8	0	相談や申し入れには迅速に対応するようにし、施設運営に反映するように努力している。	積極的に保護者とコミュニケーションをはかり、保護者から相談しやすいような関係づくりを心がけたい。
	40	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信しているか。	8	0		子どもや保護者に楽しみに見てもらえるよう、内容や更新頻度を上げて発信していきたい。
	41	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	8	0		
	42	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	8	0	視覚支援以外に、わかりやすい説明の仕方を工夫し、理解していただけているかどうかを都度確認するように心がけている。	
	43	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	4	4	コロナ禍以降、施設の行事の地域開放が限定的になっている。子ども食堂やボランティアの受け入れは実施している。	地域に開かれた施設として、子ども園に何ができるか、職員全体で検討し、具体的に取り組んでいく。
	44	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	7	1	防犯について最近では訓練ができていない。	各マニュアルについて職員や保護者に周知が不十分なので徹底したい。防犯の訓練を来年度は実施したい。
45	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	8	0	施設内の訓練は毎月実施している。	送迎時の訓練や、施設外での非常時を想定した訓練を行ってきたい。	
非常時等の対応	46	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等の子どもの状況を確認しているか。	8	0	看護師が中心となって、子どもの健康について情報収集を行い、不明な点については嘱託医にも相談する等して本人や保護者だけでなく職員も安心して療育ができるように配慮している。	
	47	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	8	0	療育現場の職員、看護師、厨房職員で医師指示書をもとに情報共有し、対応について打ち合わせを行っている。万が一を想定して事前に保護者と対応について確認している。	
	48	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	8	0		年間を通しての安全計画をしっかりと立て、毎月確実に実行するようにして、安全管理に努めた。
	49	子どもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	4	4	安全計画の内容について保護者への周知が不十分である。	職員一人一人が安全計画についてしっかりと理解したうえで、保護者にも周知の徹底をはかりたい。
	50	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	8	0	大きな事故やケガにならないようすぐに共有し、対応策についても周知するようにしている。	
	51	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	8	0	研修や虐待防止委員会の定期的な実施で、職員に問題意識を持って、日々の療育を振り返ってもらえるようにしている。	職員個人の問題でなく、職員同士で支えあい、協力し合う雰囲気づくりにつながるように継続して取り組む。
52	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか。	8	0		施設職員の人権意識を高めるためにも、身体拘束、虐待、ハラスメントについての研修を年間通して実施する。	